



## 「学校PR」とは

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

校長の仕事の一つに、「学校の状況を家庭や地域に知らせる」ことがあります。現行の学習指導要領が告示されてからは、学校は、自校の目標（目指す子どもの姿など）を、家庭や地域と共有し、連携・協働して、その実現を図ることが求められるようになったことから、学校からの「情報発信」はより重視されるようになりました。しかし、校長が、この「情報発信」の意図や目的を理解していなかったり、具体的な戦略を描けなかったりすると、家庭や地域の協力を得られないばかりか、ついには見離されてしまうことになります。

私たちは、「PR」という言葉を日常的に耳にします。1940年代にアメリカから伝えられましたが、いつの間にか「広報」や「宣伝」の意味で使われるようになったのではないのでしょうか。少なくとも、私はそのように解釈していましたので、本校の各種取組を宣伝するために「情報発信」を続けてきました。

そもそも、「PR」という言葉は、「Public Relations」の略で、直訳すると「公的な関係」になります。そして、「日本パブリックリレーションズ協会」のサイトにおいて、東京経済大学コミュニケーション学部教授の駒橋恵子氏は次のように解説しています。

パブリックリレーションズ（Public Relations）とは、組織とその組織を取り巻く人間（個人・集団）との望ましい関係を創り出すための考え方および行動の在り方である。  
(<https://prsj.or.jp/aboutpr/>)

年度当初、この「学校だより」は、全家庭にメール配信されていましたが、5月にある保護者の方から、「忙しい仕事の最中に、読みたくもない『学校だより』がメールで送られてきて迷惑だ」という連絡をいただきました。最初はかなり落ち込みましたが、よく考えてみると、この保護者の方は、とても大切なことを指摘してくれたのだと気付きました。私に『学校PR』は、何のためにするのか」ということを伝えてくれたのだと思います。

それ以来、この「学校だより」の内容は、できる限りではありますが、子どもたちや教職員など学校を取り巻く状況や、これからの時代に求められる学校の在り方などにシフトしました。また、ホームページへの掲載に切り替えたり、地域の諸機関に掲示等していただいたりするなど、保護者の方だけではなく、地域をはじめとしたより多くの方たちに、本校の様子を知っていただくようにしました。更に、「QRコード」を添付し、本校のホームページにアクセスできるようにしました。ホームページには、

「学校だより」はもとより、「学校経営方針」や「日常の学校の様子」、「月間行事予定」を掲載しています。また、「学校評価」や「各種調査」の結果等も掲載して、教育活動の成果だけでなく課題についてもお知らせしているところです。

子どもたちの活動や教職員の実践について、お褒めの言葉をいただく一方で、学校経営について、お叱りの言葉をいただくことが多いですが、今後も「学校だより」や「ホームページ」を通して、保護者や地域の皆さんとの望ましい関係づくりを模索していきたいと考えています。

